

攻めるオーナー経営者のための

NIKKEI
TOP

日経トップリーダー
LEADER

2014年6月1日発行(毎月1日発行) 第357号 1984年11月22日第3種郵便物認可

6

2014



特集

「本業」の 立て直し方

再生・倒産・再倒産の分岐点を検証する

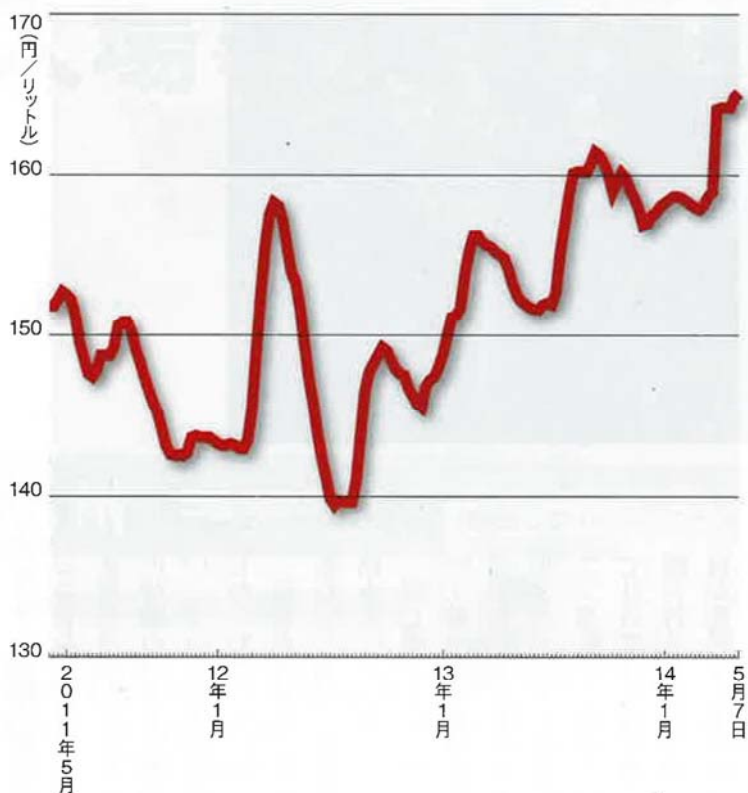
特集

ここまでやらなきゃ 若手は伸びない

インタビュー

未来工業 山田昭男 相談役
社長は無力、社員に任せればいい

レギュラーガソリン店頭価格の推移(全国平均、1リットル当たり)



出所:資源エネルギー庁発表

ガソリン、軽油価格が上昇 中小企業の業績回復には重しに

ガソリンや軽油の価格がじわじわ上昇している。円安に消費税アップ、地球温暖化対策税が加わったためだ。中小企業の経営に影響を落とし始めている。

原油価格の高止まりの中、ガソリンや軽油の価格はアベノミクスによる円安の影響でこのところ上昇。4月に消費税と地球温暖化対策税が同時に増税になったことが値上がりに拍車をかけている。

資源エネルギー庁が発表した5月12日時点のレギュラーガソリン店頭価格(全国平均)は、1リットル当たり165.4円となった。2008年9月以来、5年7カ月ぶりの高値であり、全都道府県で160円を超えた。軽油も同様に上昇し、143.8円となった。

業務で車を使う企業の経営

者は一様に頭を悩ませている。特に影響が大きいのが運送会社だ。今回の燃料の値上がりはボディーブローのように効いている。

地道な工夫と価格交渉

運送業は景気回復が進んできたことで、仕事自体は増えているが、運送代は据え置きのケースが多い。特に、中小の運送会社の場合、コスト面から見るとトラックの購入代金など固定費の占める比率が高い。さらに最近では人手不足が進み、ドライバーが集まりにくい状態が続いている。

東京・江戸川に本社を置く

左から、三洋物流の佐藤社長、総合トラックの梶社長、菱幸運輸の熊谷社長



総合トラックの梶大吉社長は「コスト構造を考えると、今の状況ではなかなかドライバーの待遇の改善まで踏み込めない。それだけ燃料代の上昇がじわじわ響いている」と話す。経営者は手をこまぬいているわけではなく、地道な工夫を積み上げている。

同じ東京・江戸川でトレーラー輸送を手がける菱幸運輸は、省エネ運転のためデジタルタコメーターなどを導入。エコ運転の達成度合いに応じて社員に報奨金を渡している。熊谷将幸社長は「約7割の社員が報奨金を受け取っている。機器の導入などに初期投資はかかるが、一定の効果はある」と説明する。

さいたま市に本社を置く三洋物流は、燃料価格に応じてかかる燃料特別付加運賃（サーチャージ）の導入について取引先と交渉し、一部で実現している。佐藤大輔社長は「優秀なドライバーの確保などの条件をテコにしながら、これ

からも価格交渉を進めていく」と話す。

ビジネスモデル見直し

ただし、荷主側の状況は厳しい。冷凍コロッケなどを主力とする札幌市のサンマルコ食品は北海道産の原料にこだわり、製造も道内で手掛ける。

全国的に人気で製品の9割以上を社外の運送会社を使い道外に送っている。それでも冷凍食品は依然としてデフレが続く。値上げは難しい。新工場施設の立ち上げで作業効率を高めて収益の改善を図るが、

藤井幸一社長は「現状ではコスト上昇で九州方面への出荷は赤字。運送会社から値上げ要請が届いているが、とても



サンマルコ食品の藤井社長



喜久屋の中嶋社長兼CEO

そのまま飲むことはできない」と話す。燃料高を契機の1つとして事業構造を見直す動きも出ている。

東京・足立に本部を置くクリーニングチェーン、喜久屋は数年前まで夜間の宅配事業に力を入れていた。しかし、市場全体の縮小にガソリン代の上昇などが加わったことでビジネスモデルの転換を選択。現在は顧客のクリーニング品を預かる保管サービスを中心に位置付けている。中嶋信一社長兼CEOは「店舗と工場の輸送ルートを見直すなどの取り組みも同時に進めながら、サービスの向上による差別化を進めていく」と話す。